

1 単元名 「We Can!2」 : Unit 4 I like my town. 「自分たちの町・地域」

2 単元のねらい

- ・地域にどのような施設があるのか、またどのような施設が欲しいのかさらに地域のよさなどを聞いたリ言ったりすることができる。
- ・地域のよさや課題などについて自分の考えや気持ちを伝え合ったり、地域のよさや願いについて例を参考に語順を意識しながら書いたりする。
- ・地域のよさなどについて、伝え合おうとする。

3 児童の実態

児童は前年度から週に1時間程度の外国語活動を行ってきた。他学年に比べ英語には慣れ親しんでいるため、英語の曲やチャンツなどには積極的に参加し、場の雰囲気盛り上げることができている。また、新たな英語表現や単語には大いに興味を示している。しかしながら ALT や HRT とのコミュニケーション活動の場面になると失敗を恐れる気持ちや、恥ずかしさが押し出され積極的に英語を使うことができない児童が多い。本単元ではグループ内でプレゼンを行うことで、今まで学んだ表現などを進んで使ってみたいという前向きな気持ちを喚起させたい。

4 教師の指導観

児童は外国語学習で新たな表現を知ることやゲーム等でそれらを使うことを楽しむことができおり、一方で英語を使った会話などといったコミュニケーション活動に苦手意識を持っている。そこで不安を解消できるよう本単元では学習のゴールである「自分の地域についてのプレゼンテーション」を HRT と ALT とでデモンストレーションを指導計画の最初に設定し、学習の目的を明確のものとした。自分たちも同じように英語でやり取りをしてみたいという意欲を喚起させることが必要と考えた。また学習のツールとしてタブレットを活用することで児童の一層の興味関心を向上させるよう努めていきたい。同時に本単元を通じて外国語科の学習でもタブレットはコミュニケーションツールとして有意義なものとしてできるのか、指導や展開を工夫してこの単元に臨みたい。

5 研究主題とのかかわり

(1) 研究主題

自分の考えを表現し、主体的・対話的に学ぶ児童の育成 ～外国語活動・外国語の学習を中心として～

(2) 研究主題設定の理由

本校の多くの児童たちは、明るく素直である。しかし、大勢の前に出ると緊張してしまい、自分の考えを上手く伝えることができない。これは全学年単学級で互いのことはある程度理解していると認識しているため、様々な場面に応じて、また異なる考えをもつ人に対して、どのように自分の意思を伝えたり相手の思いを受け止めたりすればよいかという対話の経験が少ないのが原因であると考え。このため、自分の考えを表現し、主体的・対話的に学ぶ児童の育成が必要であると考え、本研究主題を設定した。

一方社会に目を向けると、急速な情報化、グローバル化の進展の中で、変化の激しい予測困難な時代を生きていく児童たちは、現在以上に多様な人々との関わりが求められる。さらに、英語力の育成と異文化

理解や異文化コミュニケーションの充実は、ますます重要になっていくと考えている。よって本研究では特に外国語を通して、児童たちに他者とコミュニケーションを図れる資質・能力を養うために、外国語活動・外国語を研究教科として設定した。

(3) 研究主題にせまるための方策

【視点】

場面設定を工夫したり、表現内容や表現方法を工夫したりすることで、相手や他者に配慮しながら、児童が主体的にコミュニケーションを図れるようにする。

〈手立て1：場面設定の工夫〉

①必然性のある場面設定

必然性とは、児童が英語を用いて「伝えたい」「聞きたい」という言葉を提示したり、場面を設定したりすることであると考えている。本研究では言語によるコミュニケーション活動の場面だけでなく、外国語の表現に出会い慣れ親しむ過程においても、英語を用いる必然性のある言葉や場面を意図的に設定し、児童が活動に取り組めるようにする。そのために教師は、単元の目標や本時のねらいを意識した上で、児童にとって具体的で興味・関心をもって取り組めるような必然性のある場面を設定する。

②目的意識をもてるようにするゴールの明確化

目的意識をもてるようにするには、教師自身が目的意識をもち学習のゴールを明確にして学習指導に取り組むことであると考えている。外国語活動・外国語の単元構成は「出会い」「慣れ親しみ（習得）」「活用」の3段階になっている。どの場面で、どのような言語活動を行い、どのように授業を組み立てれば、単元の目標を達成できるのか、工夫・検討し授業を行うようにする。具体的な方策では、単元導入時の出会いの場面で他教科の体験や知識を活用したり、「何ができるようになるのか」等の単元のゴールを明確に示したりすることで、児童も目的意識をもって活動に取り組めるようにする。

〈手立て2：表現内容や表現方法の工夫〉

①表現内容を選択できる学習活動の設定

表現内容を選択できるとは、コミュニケーションの場面に合わせて児童に「伝えたい」「表現したい」内容を選ばせることであると考えている。具体的には、相手の発話に反応する表現をいくつかの選択肢から児童自身に選ばせる、いくつかの表現方法をまとめて視覚化したカードを用意し、返答の手掛かりとして与える等の方策が考えられる。また、自分の言いたいことがなければそのことを伝えてもよいことも伝えておく。このように児童自身が本当に「伝えたい」表現内容を自ら選択し、意欲的に表現活動を行うことで、英語を用いることの意義や楽しさを味わわせることができると考える。

また、表現内容を選択することで、多様な表現の習得や他者理解を深めることもできると考える。具体的には、聞き手の児童が、話し手が選んだ表現内容を聞き、受け入れることで、自らの表現方法の幅を広げたり、話し手の思いや考えに気付いたりすることができる。教師は児童の「伝えたい」思いを受け止め、他の児童に広げることで、児童が多様な表現方法を習得し、相手に配慮したコミュニケーションを図れる態度を育てたい。

②非言語表現を身に付ける学習活動の設定

非言語表現とは、音声言語以外の表現方法であると考えている。人は例え音声言語表現が十分習得していなくても、「伝えたい」という思いと非言語表現を用いて意思を伝えることができる。方策として、ジェスチャー（表情や身振り・手振り）と関連付けて語句や表現を覚えさせる等の非言語による伝え方の工夫を行う。具体的には教師が非言語表現を用いる状況・条件を分かりやすく示し、児童に生活経験から場面を想起できるようにする。学習支援においても、音声言語と共に動作を交えて視覚的に補助することで、

児童の言語理解を促し豊かな非言語表現活動ができるようになると考えている。

6 単元の目標【評価】

- ・習った表現を使い相手の話したことについて自身の感想を述べることができる。【知識及び技能】
- ・自分たちの地域について、聞いたり言ったりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・他者に配慮しながら、自分たちの地域について伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

7 評価規準

- ・習った表現を使い、相手の話したことについて自身の感想を述べている。【知識及び技能】
- ・自分たちの地域について、聞いたり言ったりしている。【思考力、判断力、表現力等】
- ・他者に配慮しながら、自分たちの地域について伝え合おうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

8 単元の指導計画（4時間扱い）

	目標★ 活動○	評価				評価方法
		知	思	学	評価規準	
1	<p>★さまざまな地域の説明を聞き、理解する。</p> <p>○学習の最終ゴールである「自分たちの地域」のプレゼンについてデモンストレーションをみる。</p> <p>○6つのイラストを参考にし、どの町のことを言っているのか音声を聞いて選ぶ。</p> <p>○ジェスチャーゲームを行い英語の施設を言う。</p> <p>○音声を聞いてリズムに合わせて英語を言う。</p> <p>○自分が住みたいと思う町を選んで伝え合う。</p>		○		<p>・色々な地域にあるものや欲しいと思う施設を聞き取り、紹介しあっている。</p>	<p>行動観察 振り返りカード</p>
2	<p>★自分の住んでいる地域を説明する。</p> <p>○3つの町に関する音声を聞き、施設を選び紙面に記入する。</p> <p>○音声を聞いて紙面にある施設名を指さす。</p> <p>○会話を聞いて施設やよさを聞き取って表に記入する。</p> <p>○自分の地域にあるものと無いものを探す。</p>		○		<p>・自分の地域にあるものについて、聞いたり言ったりしている。</p>	<p>行動観察 記述分析</p>
3	<p>★友達の発表を聞き、それについて意見を言い合う。</p> <p>○タブレットを使用し、発表のカードを作る。</p>	○			<p>・友達の発表の中にある施設について、自分の意見を伝え合っている。</p>	<p>行動観察 記述分析</p>

	○音声を聞いて地域にある施設、ない施設について確認、発表する。 ○映像を見て発表を聞いた後の感想の伝え方を知る。				
4 本 時	★自分の地域のプレゼンを行い、お互いに聞きあう。 ○例文をもとに音声の後について発音する。 ○タブレットを活用し、自分たちの地域のプレゼンを行う。 ○友達の発表について感想を伝える。			○	・自分の地域について発表し、お互いに考えを伝え合っている。 行動観察 記述分析 学習カード

9 本時の学習（第4時/4時間）

(1) 本時の目標

- ・自分の地域について発表し、お互いに考えを伝え合う【思考力、判断力、表現力等】

(2) 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「コミュニケーション能力」）

- ・友達と楽しく交流し、自他ともに大切にすることを養う。

(3) 人権教育上の視点

- ・様々な方法で、自分の気持ちや考えを他者にわかるように伝えることができる。（技能）

(4) 小中一貫教育の視点

- ・英語を用いてコミュニケーションを図ったり、読む・書く活動をしたりして、中学校での英語学習への円滑な接続を意識する。

(5) 本時の展開（第4時/4時間）

◎人権教育上の配慮

指導過程 (時間)	児童の活動	指導者の活動	○指導上の留意点 ☆教材・教具
		HRT / ALT	◆評価規準〈評価方法〉
1 あいさつ (2分)	○あいさつをする。 ○簡単なやりとりをする。 ○今日のことを英語で答える。	H:全体であいさつをしてコミュニケーションを図る。 A:天気、曜日、日時を英語で確認する。	○基本的なあいさつや質問や答え方が身に付くようにする。 ○自分の状態を伝えられそうな児童には積極的に尋ね、雰囲気盛り上げる。 ○テンポよく行い、学習に対する意欲を高める。
2 歌 (2分)	○「Jelly in a bowl」 ・1曲を歌う	H/A:移動しながら振り付けや歌の手本を示す。 H:他にはない動きができた児童を紹介する。	☆曲のCD ○相手の顔を見たり、手振りをつけたりしながら歌えるようにする。 ○分かったところ、聞き取れたところから歌うことも称賛し、声を出せるようにする。 ○発声することで緊張感をなくし、リラックスして活動に取り組めるようにし

			ていく。 ○音を楽しみながら、全員が歌えるようにする。
3 チャンツ (3分)	○「ビルじゃなくて building」	A : 正しい発音はALTが 担当する。 H : 移動して確認する。 A : 発音が上手にできている 児童を称賛する。	☆チャンツのCD ○本単元で使う単語が多く用意されたチャンツなのでしっかり発音できるようにする。(場合によっては繰り返して行う) ○本時でもつかう単語をリズムよく発音していく。 ○楽しく取り組んでいる児童を称賛する。
4 アクティビ ティ (32分)	○本時の目標を知る ○発表の仕方の説明 を聞く。 ○HRTとALTのデモ ンストレーション を聞く。	H:発表の仕方について説 明する。 A:カードを配布し説明す る。	☆学習カード ○カードには友達の発表について記入することを確認する。 ○分かりやすく、ゆっくり行う。 ○デモンストレーションを見て、その内容も記入し、練習とする。
	羽生市（三田ヶ谷地域）について学習した表現をつかって発表しあおう。		
	HRT : Hello, I'm Sakai-sensei. Ohtone is nice. We have a small hot spring. We don't have a book store. I like reading books and comic books. I want a big book store. Thank you. ALT : Thank you, Mr.Sakai Mr.Sakai,your idea is nice! I like reading comic books,too. I want a big book store in my town,too.		
	○4グループを作る。	H/A : nice idea . I like ---- too. me too. I want a -----too. I think so too.	

	○その場で自分のプレゼンの表現を練習する。	A:スピーチに使う表現と感想を述べるときに使う表現を練習する事を伝える。 H/A: 感想を述べる表現をデモンストレーションする。	○発表で使う表現を練習してから活動をする。その際、時間に制限を設け、時間内にそれぞれ自分が練習したい表現を練習できるようにする。 ○感想を述べる表現は忘れやすいので確認できるようにする。
羽生市（三田ヶ谷地域）について学習した表現をつかって発表しあおう。			
	○グループ内でプレゼンを持ち回りで行う。 ○発表ごとにカードに記入する。 ○各班で代表児童が発表する。 ○感想を伝える。		○タブレットの画面ばかり見ないように、相手の顔を見るように助言する。 ◆自分の地域について発表し、お互いに考えを伝え合っている。〈行動観察〉 ○発表が終わったらカードに記入する。 ◎相互尊重のコミュニケーションを円滑にするためにタブレットを活用する。 ○感想の発表はなるべく同じ班の児童にしないようにする。
5 振り返り (5分)	○本時の活動を振り返り、表を見て地域で必要なものを知る。	H: 意欲的に活動していた児童を称賛する。	○本時のねらいを確認することで振り返りができるようにする。 ○みんなの発表をまとめる際に、「一番地域に欲しいと思っていたのは何か」を児童に予想させるなどして学習意欲を高め、本時の学習を振り返ることができるようにする。 ☆振り返りカード
6 あいさつ (1分)	○あいさつをする。	H/A: あいさつをする。 「good bye チャンツ」	○楽しい雰囲気の中で学習を終えるようにする。